

# 高レベル滞留水の貯蔵及び処理の状況

○高レベル滞留水の貯蔵の状況 【2018.11.29 日時点】  
(東電：<https://bit.ly/2TNZbv6>)

(復水器、トレンチを含む)

施設	貯蔵量[m <sup>3</sup> ]	前回報告比[m <sup>3</sup> ]	T/B建屋内水位 ※8
1号機	約2,440	変化なし	—
2号機	約8,120	▲10	T.P.-105
3号機	約8,410	▲320	T.P.-114
4号機	約8,870	+10	T.P.-135
合計	約27,840		

注：T.P.：東京湾平均海面

一年前の2017.12.28日時点と比較して、建屋内の汚染水は、7,500トン、約2割強減少している。

問題点：1～4号機海側に遮水壁を設置し、汚染された地下水の海洋流出を防いでいるが、凍土壁を設置したものの、地下水を通じて汚染水は毎日130トンずつ増えているのが実情。

## ○高レベル滞留水の処理の状況

主な汚染物質を処理してタンクに貯蔵されている処理水は2019年1月24日現在で約112万トン。除去されないのはトリチウムだけとしていたが、処理水の83%(約90万トン)に放出基準値を上回る放射性物質(ストロンチウム等)が含まれていた。

(東電：<https://bit.ly/2l6Rizb>)。



トリチウムは化学・物理的に処理が不可能で、原子力規制委員会や科学者らは健康への影響を含め海洋放出に問題はないとの立場で希釈しての海洋への廃棄も噂されている(日経、2019/2/12、<https://s.nikkei.com/2GndEei>)。しかし、トリチウムに対する危険性を指摘する科学者もあり、漁業組合からは、風評被害等で大きな問題があるため、タンク貯蔵を望む声が多い。また、汚染水80万トンを放出するのに7～8年かかり、35～45億円が必要で、コスト的にも困難な作業だ。<https://bit.ly/2Dw5gW1>)